

# 出張報告

報告日 令和 8 年 2 月 9 日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	春川敏浩 上森茜
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	令和 8 年度予算審議集中講座
日時	令和 8 年 1 月 27 日 ~ 令和 8 年 1 月 28 日
場所 (会場)	リファレンス西新宿大京ビル（東京都新宿区西新宿 7 丁目 21-3）
調査項目等	
概要	<p>元財政課長から学ぶ 令和 8 年度予算審議集中講座② 数字の奥に隠された自治体財政の勘所</p> <p>1. 自治体財政の勘所②</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一般財源はそんなに増減しない：福岡市の事例を用いた。過去 10 年間は 4000 億円前後でほぼ横ばい。</li><li>・人口、税収が伸びても一般財源全体は変化なし（国の地方交付税制度の変更で増減）</li><li>・「地方交付税」は、国が集めた国税を、税収の少ない地方に配分し、地方の税収格差をならす仕組み</li></ul> <p>→税収が減れば補てんが受けられる →税収が増えると交付税が減る仕組み</p> <p>2. 自治体財政の勘所③</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国で見られる雨後のタケノコ「財政危機宣言」：人件費、物価の高騰 公共施設の後年度負担（公債費、維持管理） 住民ニーズに対応した施策の拡充 經常収入で經常経費を賄えない 基金取り崩し等の臨時収入でしか対応できず 基金が枯渇すれば「財政破綻」 （資金繰りのための借金はできない）</li><li>・財政危機に陥った理由：収入の急減、支出の急増ではない単に収入の範囲で支出を組むというルールを守れずに過去の貯金を取り崩してきたのが限界に達しただけ</li></ul>

なぜ支出を収入の範囲に押さえられないのか

なぜそのことを誰も気づかないのか

なぜ気づいても止められないのか

財政危機はガバナンスの問題でしかない

・足りないのはお金だけではない：財政危機を乗り切るために財源不足解消のための歳入確保、歳出削減

→短期的に解消できたとしても同じ轍を踏む

・同じ過ちを繰り返さないために

得られる収入、財源の範囲内で市民の幸福を最大化する市政運営が可能な体制への改革

→「足るを知る」自律経営組織へ

元財政課長から学ぶ 令和8年度予算審議集中講座③

議員力を示す質問術

・よりよい予算に必要なもの：①適切な行政サービスの提供②収支均衡・財政規律の維持③市民の納得性

・よりよい予算決算審査のために：対話の鍵を握る議員は市民を代位し議論を代行するアバター

・対話が本当に必要なのは誰：必要なのは市民同士の相互理解

議会は市民同士の対話を代行する劇場

・その道のプロとして：議員は、市民の行政リテラシー向上のため「中の人」と市民をつなぐのが仕事

・予算審査のチェックポイント：①Action（事業内容の磨き上げ）

個々の施策事業の有効性、効率性の確認

②Vision（将来像の実現）

目指す街の姿への道のり（目標、成果）

そのための優先順位付け

③Frame（枠組みの堅持）

収支の均衡、財政規律、将来負担の確認

元財政課長から学ぶ 令和8年度予算審議集中講座④

予算審議を武器に変える

・予算が余るのは悪いことか

・予算が余ると財政課に怒られる理由：余ったお金がどこに行くかを知ろう（決算剰余金として繰り越し、来年度半分使えて半分は財政調整基金へ）

・予算が余ると議会に怒られる理由：使ったお金の額が市民の幸せではない

・財政調整基金残高を注視せよ

・年度間の財源調整を行う最後の切り札：決算剰余金の半分以上を翌年度に積み立て予算編成時の財源不足に充てる一般財源

・基金残高減少の意味を正しく知る：残高減少は収支均衡が崩れている証拠

	<p>要因を把握しその傾向が継続するか分析 積立てと取崩しのバランスを考慮し基金活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経常収支比率に惑わされるな：財政の硬直度を示す「経常収支比率」毎年見込まれる収入で毎年見込まれる支出を賄うことができているか → 財政健全化の動機づけ</li> <li>・ 経常収支比率の改善を目標にしない：財政健全化は目的ではなく政策推進の手法。他都市並みになることに意味があるのか</li> <li>・ 経常収支比率の正しい活用：経常収支比率を他都市並みにする？自治体のありようは千差万別</li> <li>・ 比較するなら他都市ではなく自らの過去：経常収支比率悪化の原因を把握分析</li> <li>・ 悪化の要因を取り除くことが処方箋ではない：経常的経費の増大は過去の政策決定の結果、過去の否定ではなく優先順位の最適化を。</li> </ul>
<p>所 感 等</p>	<p>(上森茜)</p> <p>元福岡市財政調整課長の現場での実体験なども踏まえた予算審議に対する臨み方の研修に参加し行政の財政運営、予算編成の目的、財政調整基金について学んだ。自治体の経営は企業よりも難しい、お金を貯めるのが良いことではない。そこをどうやってもっと多くの人に知ってもらえることができるのか。市民の幸せが最大の自治体経営である。財政の健全化に向けて、既存事業を削って生み出した財源を新規事業に充てる「スクラップ&amp;ビルド」ではなく、新たな事業を始めるために今やっていることを見直す。まずやるべきことを「ビルドしそれよりも優先順位の低いものをスクラップする」の考え方が重要であると強調していた点には強く共感した。</p> <p>(春川敏浩)</p> <p>講師は、元福岡市財政調整課長で財政畑のエキスパートであり、予算編成時期には各課に回ったり、事前に自分の知る知識を職員に共有し財政が厳しい現状を講義してきた人である。北海道から沖縄まで 43 都道府県へ出前講座を 200 回以上開催し、受講者は 8,000 人以上と言う。予算編成では各部門が如何に市民目線で事業を遂行するのかが重要なポイントである。財政の基本ルールは、収入の範囲に支出を抑えること。自治体の職員は「予算」と言うと「自分で使えるお金」と思いがち。</p> <p>予算組み立て段階で、経常収支比率に惑わされないこと。自治体の職員は他市と比較は愚の骨頂、過去のデータにより分析すべきと指摘した。財政調整基金残高には注視すべき。基金残高についても減少した時の意味を正しく知ること必要であるとした。</p> <p>研修を通して予算編成の要点を学んだが、自治体職員にも機会があったら受講を勧めたい。</p>